

付論2 新型コロナウイルスが強制（視覚化）する人口減少社会日本の現実への対峙 ー単身世帯と高齢世帯の激増と出生数減によるモデル家族減の継続

1. 単身世帯増⇒日常生活が不安定⇒衣食住のすべての個人化の進行

⇒社会保障の世帯単位から個人単位へ

1) 世帯単位の支援システム⇒職とリンクする所属組織による供給制度（給与、健康保険、居住環境）

- ①非正規、派遣制度、季節労働、出稼ぎ⇒世帯主・単身なら失業と収入（生活費）喪失の危機
- ②専業主婦、学生、アルバイト⇒世帯主に職があれば世帯収入減と負担増の同時進行
- ③ひとり親世帯⇒職の喪失の前に鐘楼時間減による収入減の時点で生活保護の対象に

2) コロナ感染危機・不安⇒都市部実質閉鎖状況・・・自粛による生活時空縮小自閉

- ①小規模サービス業従業者の非就労化⇒生計窮乏化を超える倒産・離職への危機
- ②「巨大都市⇄大都市⇄中都市⇄小規模自治体」の循環構造の停滞・縮小・断裂可能性
 - ⇒団塊の後期高齢化に向けての世代間差異の再構成（6次産業化とDX Digital transformation）
 - ⇒育児と介護の社会化の進行⇒リモートワークとエッセンシャルワークの共栄への希望
 - ⇒巨大都市内に単身後期高齢者激増による窮乏スラム現出、小規模自治体の消失可能性への危惧

2. 高齢世帯⇒厚生年金による保証、健康保険と医療の高度化、介護保険と介護施設の多様化

1) 施設内感染⇒高齢と持病による合併症・・・

- ①介護者の感染、感染不安による離職⇒要介護者の介護困難
- ②要介護者の感染⇒重症化＋？⇒防疫システムの高度化・・・医療＋6次産業＋DX

2) 国民年金のみの世帯・・・単身化による生活保障の必要性・・・感染の潜在化

- ①高齢者の就労化と感染防疫高度化の同時進行
- ②厚生年金・社会保険の拡大（1号と3号を2号に）⇒正規と非正規を問わず社会保障の均等化を

3. 出生数減によるモデル家族減少歯止めかからず⇒支える側の分母の縮小も継続

1) 出産育児と教育の市場規模の縮小⇒受胎・出産・育児・保育・教育の高付加価値化⇒高額化

- ①未婚率の高止まり⇒出産可能女性人口の縮小⇒都市部集中⇒出産負担の個人化
- ②出産・育児と教育の高付加価値化＝高額化に応じた社会的支援システムの拡充の必要性
- ③“女性の就労化と母親の保育・教育力強化”の“両立要請不合理”の世論化と“育児・教育の社会化”を

2) 家庭の教育力、文化資本重視の強調は、結婚と出産育児のハードルを上げる。

- ①母となる条件の高度化（高い教育力）⇒離職を強いる⇒家族をつくることへの拒否感
- ②女性の就労継続を阻む前に、結婚へのハードルを上げる
- ③家庭の教育力⇒わが子の受験学力向上への私的資本の投下⇒子育ての社会化への道を阻む

3) 教育格差と経済格差（家庭⇄母親の教育力）のリンクの強調・・・

- ①教育評価の認知能力（受験学力）への一元化が出生率低下促進の自覚なき世論に
- ②格差と不平等の強調が婚姻率と出生率低下の促進力に

4. コロナ感染をさけるための休校長期化でのオンライン学習格差論への疑問視

- 1) コロナ危機による公立学校におけるオンライン学習条件不足を学習格差とみなす論の不見識
- 2) 日本の公立学校の授業での学習を受験知で一元化する危険性